

工 事 タ イ ム ス

賀 正

VOL. 7. No. 1, JANUARY 1931

タ イ ム ス
編 輯 局

伊豆地方の震災直後丹那トンネルの被害状況を實査する爲め現場に急行した鐵道省建設局の地質關係の技師渡邊貫氏は十二月一日夜歸京し二日午前十時黒河内建設局長其他關係官に報告したが右に依れば

今回の地震で最大の龜裂を生じたのは大正十三年丹那盆地で行つたホーリングC及Bの中間にある斷層で此斷層は池の山峠附近で水平三米三〇垂直一米半の最大龜裂を生じてゐる。斷層線上にある家屋は南北に搖れて見事にとんぼりを打つて居る。而も之から廿間位しか離れて居らぬ家は無事で又山端の家が反射波の影響で大なる被害を蒙つてゐるのは面白い現象である、トンネル内部は西口最奥部で水平に約八尺南北に移動してゐることが判明してゐるが其センターほどれ位動いてゐるかは尙未掘鑿區間に二個以上の斷層があるので判明せぬが日下熱海線建設事務所から二隊の測量隊を派してトンネル内部と主斷層線上の水平垂直の動き龜裂数を測量せしめてゐるから其結果判明するであらう熱海口から九千八百尺の所で主導坑が垂直に八吋動いて居ると例の西口の崩壞箇所

があるのと疊築は所々に龜裂を生じて居るが何れも大したことはない、勿論今後の工事續行には差支へない。

又氣象臺某技師に依つて傳へられたやうにトンネルの一部が何百尺とか行方不明になつたなどと云ふ事實は全然なく唯西口の最奥部の斷層に突當つてゐる所が三四尺崩れてしまつてゐる位であると、尙今後水「ホーリング」を行つて質の調査を爲す苦であるが地震研究所の石本巳四雄博士は二十九日トンネル内に獨特の水品傾斜計を据付け岩漿注入による深発性地震に先行する地殻の傾斜を測定中であるが之は餘震を豫期し得るもので又將來の地震豫知のために鐵道省では之を同トンネル内に永久的に施設せんことを希望してゐる向きである。

内務省廳舎が
新年早々入札

帝都工事請負界から大いに期待されてゐる内務省廳舎の建築は大藏省管財局に於て中止解除と共に着手準備中であつたが、右は年末業界多忙期に指名入札を行はず今春早々初入札に附する事に決定した。而して鐵骨鐵筋コンクリート造り總坪一萬は當初の豫算約五百萬圓が大體四百萬圓に減額になり昭和八年の竣工期

SPECIAL ROOM

忍術の合理化

一日に四十里を歩むとか、五十尺の高處から飛下るとか、三間を一飛にする様な忍術のわざは總て合理的動作の練磨に依つて出来るのである。

精神を統一すると云ふ事は忍術に最も大切な條件である。精神が統一状態にあれば五官の働は偉大なものとなる。耳は平常の十四倍

の聽力となり、眼は三倍の視力となり、鼻は平常の何倍かの嗅覺となる。總て此等の官能の異常なる働きに依つて敵状を探り、我身を保護し、作業の目的を達し得るのである。

忍術は精神の力に依つて總ての環境を支配し、或は自己と云ふものを環境に全然没入して了ればならぬ。故に總ての武藝に通じ、總ての世情に通じて之を體得してゐなければならぬ。

乞食の姿となり、僧侶の姿となり、藝人の姿となり種々様々變化させて、然も少しも無理もない。

自然の乞食となり、自然の僧侶となる、或時は自己を禽獸と化する様な場合も必要である。

臨機應變の其等の一舉一動に精神の力に依つて練磨された體忍の効によるものである。忍術の極意も結局は身心の修養練磨に依つて自然の正道を科學的に合理化したものである。

十月二十七日丸ノ内の鐵道協會で甲賀流忍術の師範たる藤田西湖氏の『日本の忍術』に就く講演は多大の感興を與へた。以上は當日の談片である。